

2.1 科学技術時代に求められる倫理の育成に向けた道德教育カリキュラムの開発研究
研究代表者 西野 真由美（教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官）

①研究の趣旨，ねらい

科学技術立国をめざす我が国では、科学技術・理科教育の果たす役割に期待が寄せられるとともに、科学技術と社会との新しい関係の構築をめざした科学技術倫理の確立が急務となっている。

学校教育においても、基礎的な知識の学習を充実するとともに、学習に意欲的に取り組む姿勢や学習を日常生活や社会に役立てようとする態度など、科学を学ぶ子どもの「心」に焦点を充てたカリキュラムの充実が求められている。

本研究では、こうした要請を踏まえ、学校における道德教育において、科学技術時代に求められる倫理の育成をめざしたカリキュラム開発を進めるための理論的枠組を構築することをめざした。

この目的を達成するため、本研究では、次の二つの課題に取り組んだ。

1. 科学技術時代における科学と道德・倫理との関わりに関する理論研究の成果を分析し、道德教育のカリキュラム開発の基盤となる理論の枠組を検討する。
2. 科学教育と連携した道德教育カリキュラム開発の方策を検討する。

②研究成果の概要

○現代の科学哲学における科学的なものの見方と道德・倫理や徳性との関わりを概観し、これからの道德教育に求められる課題を抽出した。

○米国の大学で実践されている技術者倫理教育の事例を参照し、工学設計的な視点が、とりわけ中等教育における道德教育カリキュラムにおいても重要な役割を担うことを示した。

○市民社会における科学技術評価として注目されてきたリスク・コミュニケーションの在り方に関する研究成果を生かし、科学技術時代におけるコミュニケーションによる合意形成の意義を明らかにした。

○以上を踏まえ、科学技術倫理を育成するための道德教育カリキュラムの中心的教育課題を「批判的思考力」と「コミュニケーションによる合意形成」として提起し、これらの課題に応えるカリキュラム開発理論を検討した。

③中期目標との関連性

○基礎研究部活動目標3「社会の変化に応じて新たに要請されている教育内容の円滑な実施に資するための調査研究を推進する」の一貫として、今日的な教育課題である科学技術に積極的に関わる市民性を育成するための道德教育の指導方法を研究した。

④今後の研究予定

○本研究は道德教育における科学技術倫理育成に向けたカリキュラム開発の理論的枠組の検討にとどまっている。道德教育における具体的な指導方法ならびに教材の在り方に関する研究は、平成19年度以降引き続き実施している。

⑤キーワード

(1) 道德教育 (2) 技術者倫理 (3) カリキュラム開発

⑦本研究の研究報告書

○『科学技術時代に求められる倫理の育成に向けた道德教育カリキュラムの開発研究』（平成16～17年度科学研究費補助金基盤研究(C) (2) 研究成果報告書)